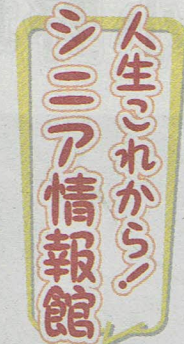




幸 齢 社 会



シニアライフアドバイザー
松本すみ子

昨年ほんねんの訪日ほうにち外国人旅行者数は約2869万人で、政府の目標は2020年に4000万人といわれます。地域社会でも外国人に接することは、さほど珍しくなくなるでしょう。

近頃ちかごろは各地で、市民が外国人を支援する活動が盛んになっています。その一つが、東京都の「外国人おもてなし語学ボラン

おもてなし精神

「ティア」育成講座です。街中で困っている外国人を見掛けたら積極的に声を掛け、道案内などの手助けができる人を増やそうというものです。

私も昨年、この講座を受講。合計5日間で、異文化コミュニケーションを踏まえた外国人への「おもてなし」と、中学校で学習する程度の簡単な英会話を学びました。同講座には英語力に自信のある人を対象としたコースもあります。

私が驚いたのは、受講者に60代以上のシニア世代が少なくなかったこと。中には80代の方もいました。以前から少し感じていましたが、外国人との交流に

東京五輪でボランティア

関心の高いシニアが多いことを強く確信しました。

受講理由を伺うと、「外国に住んでいた経験を生かしたい」「訪日してくれた外国人が困っていたら、何かしてあげたい」「海外旅行で親切にされたことがあり、恩返ししたい」「英語

で道案内ができれば楽しそう」など、誰もが積極的です。

こうした取り組みは2年後に開かれる、東京五輪・パラリンピックと無縁ではありません。東京都と大会組織委員会では、大会運営の支援、道案内などを担うボランティアは11万人以上

になると見込んでいます。

また、五輪で活躍するボランティアは、講座を受けた「登録ボランティア」だけとは限りません。おもてなしの精神がみなぎる、まだ元気で時間的にも余裕のあるシニア世代は、貴重な戦力の「街角ボランティア」としても期待されているようです。

